



<定点把握感染症>

疾患名	全国	山形県			山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積(県)
	第46週	第46週	第47週	増減	第46週	第47週	増減	第46週	第47週	増減	第46週	第47週	増減	第46週	第47週	増減	第46週	第47週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(45)			(10)			(10)			(4)			(9)			(12)			
インフルエンザ	19 0.00																			67
小児科定点 (定点医療機関数)		(29)			(6)			(7)			(3)			(6)			(7)			
RSウイルス感染症	796 0.25	4 0.14	2 0.07	▽				1 0.14	△								4 0.57	1 0.14	▽	3044
咽頭結膜熱	557 0.18	27 0.93	25 0.86	▽	3 0.50	1 0.17	▽	1 0.14	△				21 ◎3.50	17 ◎2.83	▽	3 0.43	6 0.86	△	528	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1789 0.57	30 1.03	30 1.03		1 0.17		▽	24 3.43	25 3.57	△	1 0.33	△	4 0.67	4 0.67		1 0.14		▽	1347	
感染性胃腸炎	12062 3.83	103 3.55	102 3.52	▽	46 7.67	46 7.67		19 2.71	13 1.86	▼	1 0.33	△	33 5.50	32 5.33	▽	5 0.71	10 1.43	▲	2974	
水痘	379 0.12	3 0.10	6 0.21	△				1 0.14	1 0.14					2 0.33	△	2 0.29	3 0.43	△	128	
手足口病	5343 1.70	2 0.07	12 0.41	▲	2 0.33	11 1.83	▲	1 0.14	△										80	
伝染性紅斑	34 0.01		1 0.03	△		1 0.17	△												16	
突発性発しん	1102 0.35	9 0.31	13 0.45	△	2 0.33	3 0.50	▲	3 0.43	2 0.29	▽	1 0.33	2 0.67	△	3 0.50	3 0.50		3 0.43	△	664	
ヘルパンギーナ	1485 0.47	8 0.28	8 0.28					6 0.86	5 0.71	▽	2 0.67	▽		3 0.50	△				404	
流行性耳下腺炎	107 0.03		1 0.03	△		1 0.17	△												54	
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(1)			(3)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	4 0.01																			0
流行性角結膜炎	134 0.19	5 0.63	4 0.50	▽				4 1.33	1 0.33	▽	1 1.00	3 3.00	△						62	
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(2)			(2)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	4 0.01																			1
クラミジア肺炎																				0
マイコプラズマ肺炎	6 0.01																			5
細菌性髄膜炎	3 0.01																			2
無菌性髄膜炎	10 0.02																			0

◎ : 警報レベル ○ : 注意報レベル

<全数把握感染症>

疾患名	報告数					備考
	山形市	村山	最上	置賜	庄内	
結核				1		
腸管出血性大腸菌感染症	1			1		O血清群不明 VT2(1)、O157 VT1VT2(1)。
カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1				1	90日以内の海外渡航歴: 無し(2)。

<通信欄>

※新型コロナウイルス感染症情報について

新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システムの運用開始に伴い、新型コロナウイルス感染症は週報の対象外となりました。
山形県の新型コロナウイルス感染症に関する情報は、右記の「新型コロナウイルス感染症に関連するポータルサイト」をご覧ください。(QRコードを読みとるかPDFファイル上でクリックしてアクセスしてください。)



※警報・注意報の基準値

疾患名	警報レベル		注意報レベル
	開始	終息	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。
※ウイルス分離・検出状況については、衛生研究所のHPをご覧ください。

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数
※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	合計
インフルエンザ	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									0
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1			1											2
咽頭結膜熱		3	14	5		1	1	1							25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			4	3	5	5	3	3	3	2	1	1			30
感染性胃腸炎	1	6	17	24	12	3	7	8	1	4	5	10	4		102
水痘			1			1	1					3			6
手足口病		1	10	1											12
伝染性紅斑				1											1
突発性発しん		5	8												13
ヘルパンギーナ				4	3	1									8
流行性耳下腺炎											1				1

<トピックス>

感染性胃腸炎にご注意ください

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌に感染したことにより起こる胃腸炎の総称で、冬季はノロウイルスによる感染性胃腸炎が多くみられます。主な症状は、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱です。

県内の小児科定点における感染性胃腸炎の報告数を年齢別にみると、1歳が多いことがわかります。

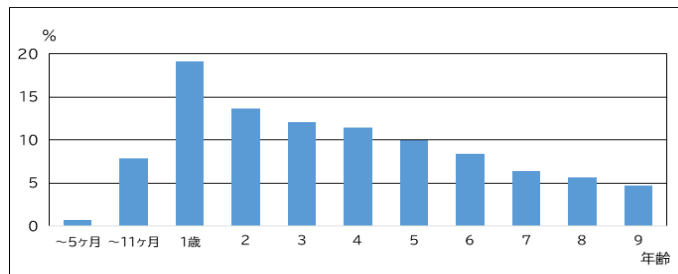


図 県内定点医療機関における感染性胃腸炎患者の年齢分布(9歳まで)
*2019年第1週から2021年第47週までの累計

< 令和3年10月 月報 >

※メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告数が修正されました。(1～9月分)

2021年11月17日 発行

疾患名	山形県		山形市保健所		村山保健所		最上保健所		置賜保健所		庄内保健所		累積(県)	
	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(3)		(1)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	16	14	7	6	3		2	4		1	4	3	152
	定点当り	1.60	1.40	2.33	2.00	3.00		2.00	4.00		0.50	1.33	1.00	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	8	15	1	5		1	4	4	1	3	2	2	93
	定点当り	0.80	1.50	0.33	1.67		1.00	4.00	4.00	0.50	1.50	0.67	0.67	
尖圭コンジローマ	報告数	2	3	1					3			1		19
	定点当り	0.20	0.30	0.33					3.00			0.33		
淋菌感染症	報告数	8	6	2	2			2	1	1	5	1		36
	定点当り	0.80	0.60	0.67	0.67			2.00	0.50	0.50	1.67	0.33		
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(2)		(2)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	2	5		2			1	1		1	1	1	38
	定点当り	0.20	0.50		1.00			1.00	1.00		0.50	0.33	0.33	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	14	10	1	2	2	3			5		6	5	124
	定点当り	1.40	1.00	0.50	1.00	1.00	1.50			2.50		2.00	1.67	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数		1										1	1
	定点当り		0.10										0.33	

ノロウイルスによる急性胃腸炎について

1.感染経路は？

ウイルスに汚染された食品を食べて感染する場合や感染者のふん便や吐づつを介し、経口感染する場合があります。

ノロウイルスは感染力が強く、また時間が経っても、吐づつやふん便、さらには、それらにより汚染された床などに感染力のあるウイルスが残っている場合があります。

2.ノロウイルスによる感染を防ぐには？

最も重要な予防方法は手洗いです。おむつなどの交換後は流水・石けんによる手洗いを十分に行ってください。

また、患者の吐づつや便には大量のウイルスが存在し感染源となりうるため、その処理も大切です。マスクと手袋を着用し、ウイルスが飛び散らないようにペーパータオル類で静かに拭き取り、速やかにビニール袋に密閉して廃棄します。

環境消毒には次亜塩素酸ナトリウムが有効です。

(参考:厚生労働省 ノロウイルスに関するQ&A)

